

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 貫 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

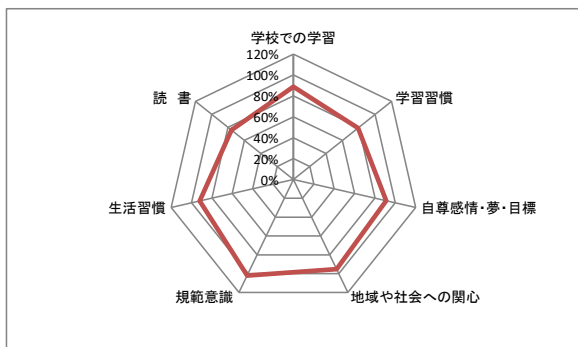
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。無回答率については、前半の問題については全国及び県のデータと比べると低いが、後半の問題になるにつれ上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」問題の平均正答率は、市の平均を上回った。	
	努力が必要な問題	記述式の問題の平均正答率が全体的に全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。また、「漢字を文の中で正しく使う」問題の平均正答率も全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。無回答率については、全国及び県のデータと比べると低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる」問題の平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均を上回った。	
	努力が必要な問題	記述式の問題の平均正答率が全体的に全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。また、「除法」に関する問題の平均正答率も全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合が、全国平均を上回っている。高い規範意識をもって生活することができる。今後も人権教育カリキュラムを推進し、規範意識を養うようにする。</p> <p>○「1日当たりテレビゲームを2時間以上する」と回答した児童の割合が6割程度で、全国平均を上回っている。</p> <p>○「学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上学習している」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。全校で自主学習の時間の目安や内容例を継続して示し、自主学習の習慣が定着するようにする。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「複数教科における『学びの質を高める授業』5つのポイント」をふまえた授業づくりに取り組み、全校で一貫した授業スタイル(個人思考からの話し合い・書く活動に重点を置く)を確立し、児童の思考力向上に努める。
- 本市で作成している「基礎・基本問題」や「診断問題」を活用する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習チャレンジハンドブックを積極的に活用すると共に学年別の家庭学習時間を設定し、家庭学習のスタンダード化を図る。
- 学級、学年、学校通信や懇談会を通じて、本校の取組や課題を保護者に周知し、協力を得る。